

---

# 全て

慶太

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

全て

### 【NNコード】

N5370D

### 【作者名】

慶太

### 【あらすじ】

彼女の悲しき人生に終わりが来た

あの時は本当に自分が理解できなかつた・・・。

私の名前は中村明美・当時（20）

両親は私が幼い時、離婚して母のもとに残つたのが兄と私だつた母は私達を養うため身を粉にして働いたそのお陰で過労からくる病で何度も入院を繰り返したそのたんび何度も兄と一緒に祖母の家に預けられたそんなことを繰り返す内に母は祖母に説得され

祖母の家で暮らす事になつた前よりは楽になつた生活を送つていた。けれど、それは時期など関係なく私たち家族を苦しめ始めた。それは、兄が高2になつた初夏の頃に訪れた初めは思春期特有のものだと思つていたそして、私も同じものだと兄は途中で高校を中退した友人と夜な夜な遊んでいた。そして、煙草に酒

私が高1になつた頃、兄は高校にも行かずになり、気付かない内に髪も赤に染め耳に拡張したピアスを何個もつけ中古で買つたバイクで知らない人達と何処かへ行つてしまつようになつた。

そんな時の事だつた。私が夏休みのバイトから帰つた日だつた何時ものように灯りが点いている玄関に灯りがついてなくて最初は祖母が何処かへ行つているのか？と思つたけれど開けた瞬間、その考えは一気に消えた

暗い廊下の奥で母の泣いている声だけはつきり聞こえた靴を脱いで灯りを点けると青紫に腫れた母の顔が其処にあつたそして、木枯らしが入つてきている台所の割れた窓。

私はその2点を見て理解した。『明美』台所の奥の居間から祖母の声がした

祖母は静かに玄関に近づいてきた何所か歩きにくそうにしてる右足の膝上を見ると大きな打撲をしていた

私はギョッとした言葉を失った

「おばあちゃん、無理しないで・・・」

私は急いで台所に干してある布巾を濡らし泣いている母の顔に当たった  
そして、祖母をダイニングチェアに座らせ打撲の処に塗り薬を塗つた

『有難う・・・』そんな小さな祖母の声を聞いて涙が出てきた  
『ごめんね・・・』ただ遣る瀬無い思いが私を襲つた

そして、地獄が其処から始まつた

兄の暴力は次第に増していったそのたんび警察が何度も家にきた  
けれど、兄はそのたんび外へ逃げてしまい

結局、その繰り返しだ

兄が二十歳になつたとき保健所に相談したが  
保健所もただ何かあつたら先に警察に連絡してくれと言つだけだった  
母も祖母も何度も嘆いた

そして、しまいには私にも手を出した

そして、私の貯金通帳を奪つて出て行つた

私は泣いた何度も泣いた

こんな生活嫌だ何故兄はああなつたのか

心中で母を恨んだ兄を殺したいと何度も思つた  
そんな生活を送る中で私は悪い男に引っかかった

思春期で家のこと自分自身のことも悩んでいた私は何処かに逃げ口を探していた

それが直樹だつた。出会つた頃はとても優しかつた

けれど、体の関係を持つた時から何故か急に態度が変わつた

そして、ただ会うだけあつて私を部屋へ連れ込んでやりたいことだけやつて

私を外へ追いやつた。私は本当に孤独になつた  
逃げる道を間違えた涙が地面を濡らした

死にたいとも何度も思つた

何で私だけ?とも何度も思つた

そして今、23歳の誕生日私は卒業した高校の屋上から身を投げた

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5370d/>

---

全て

2010年12月24日14時00分発行